

たいのかを、皆が見える形でより明確に提示することにより、職員の育成に努めてほしい。

(3)検討会における検討結果

本市が求める水準を満たしており、社会福祉法人 北九州市保育事業協会が指定管理者として相応しいと判断する。検討会における議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう市に求めることとする。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、社会福祉法人 北九州市保育事業協会を指定管理者候補に選定しました。

(1)選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2)市における主な選定理由

- ・保護者の意見に耳を傾け、なおかつ迅速に対応できている。
- ・保育士の研修については、更なる改善が必要。
- ・新型コロナウイルス感染症の対策等、時代の背景に沿った計画がなされている。
- ・指定管理施設運営に必要な人的基盤や財政基盤を有している。
- ・安全対策、危機管理体制等が十分に考えられており、児童の安全等について配慮がなされている。

8 提案額

141,140 千円(令和3年度～令和7年度までの各年度)

提 案 概 要

(北九州市立千防保育所 指定管理者)

団体名： 社会福祉法人 北九州市保育事業協会

1 指定管理者としての適性について

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針
<p>児童福祉法第24条に基づき、北九州市の委託を受け、子どもの個性を尊重しつつ、公平にかつ、安全面に十分留意した保育を行うことで子どもの健全育成を図る。また、地域社会との連携の充実を図りつつ、子育て支援の拠点として安定した運営を推進していく。</p>
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤
<p>6つの保育施設を運営することで、役職及び役割に適した人材の配置と、変動のない予算を組み、持続的に安定した運営を図ることを大切にしている。また、必要に応じた人材の確保に努めている。</p>
(3) 実績や経験など
<p>当法人は、昭和49年から長期に渡って、保育事業に携わってきた実績を効果的に活用し、独自に法人内研修を実施する等積極的に人材育成を行っている。これまでの経験を生かし、施設運営及び地域社会の福祉向上のため多いに貢献している。</p>

2 管理運営計画の適確性

【有効性】に関する取組み
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み
<p>施設の設置目的の達成に向けては、その目的を十分理解し、達成に向けて取り組むための保育計画と事業計画が必要である。計画を立て、目標を定め、達成に向けて取組み、事業を展開している。</p>
(2) 利用者の満足度
<p>保育の実施にあたっては、利用者の意向を把握することが重要であり、方法として、日々の保護者とのコミュニケーションを大切にしながら様々な工夫や方法で情報の収集を行い、それらを反映させていくことが効果的であり、利用者・児童の側に立った取組みに努めており、保護者の信頼は厚い。</p>

【効率性】に関する取組み
(1) 指定管理料及び収入
施設型給付費・指定管理料（民間保育所運営補助金・光熱水費及び施設保守点検経費等）・利用者等利用料収入を収入として、運営を図る。
(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性
確立した予算を組み込み、また、決算を点検し、安定した運営を図るように努める。

【適正性】に関する取組み
(1) 管理運営体制など
責任ある業務を遂行するため、専任の施設長、主任保育士を配置するとともに配置基準を満たした保育士の配置を行う。また、職員の資質向上に向けた法人内研修、外部研修への積極的な参加の働きかけを行う。
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など
子どもの命を守り、一人一人を公平にかつ安定した生活を提供するため、安全な保育環境を整える。体制としては、対応等の連携図や各種の危機管理マニュアル等を作成し、職場内研修等の機会をとらえ、全職員が共通認識を持ち、対応できるようにしている。

提案額（千円）

令和3年度	141,140千円 施設型給付費・利用者等利用料収入 指定管理料（民間保育所運営補助金・光熱水費及び施設保守点検経費等）
令和4年度	141,140千円 施設型給付費・利用者等利用料収入 指定管理料（民間保育所運営補助金・光熱水費及び施設保守点検経費等）
令和5年度	141,140千円 施設型給付費・利用者等利用料収入 指定管理料（民間保育所運営補助金・光熱水費及び施設保守点検経費等）
令和6年度	141,140千円 施設型給付費・利用者等利用料収入 指定管理料（民間保育所運営補助金・光熱水費及び施設保守点検経費等）
令和7年度	141,140千円 施設型給付費・利用者等利用料収入 指定管理料（民間保育所運営補助金・光熱水費及び施設保守点検経費等）

※提案概要は、提案書の内容を2枚程度（A4）にまとめてください。

北九州市立小倉北ふれあい保育所他3所 指定管理者検討会議事録

- 1 開催日時 令和2年10月9日(金) 14:00~17:10
- 2 場所 北九州市役所庁舎5階 特別会議室 A
- 3 出席者 (検討会構成員)尾家委員、野中委員、中西委員、松木委員
(事務局)子ども家庭局保育課事業調整担当課長、事業調整担当係長、保育課担当職員

4 会議内容

- ◆ 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明
- ◆ 構成員の互選により、座長を選出
- ◆ 検討会の位置づけ、応募状況、選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- ◆ 応募団体より提案概要に関してヒアリング(プレゼンテーション後に質疑応答)

(1)小倉北ふれあい保育所

【応募団体】社会福祉法人 正善寺福祉会

(構成員)

今年度を通して見つけた課題はあるか。また、その課題を来年度以降どのように園の研修に活かして行くのか。

(応募団体)

コロナ禍の経験から、研修のシステムを見直す必要があると感じている。小倉北ふれあい保育所は、乳児部と夜間部があるため、職員が全員揃っての研修ができなかった。そのため、同じ研修を2回実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインで研修を実施。今後に備え、子どもたちの安心・安全を守るために、新型コロナウイルス感染症に対する知識や保護者対応等の研修を行っていききたい。

(構成員)

新型コロナウイルス感染症の関係で、行事や保育室には保護者が入れない状況があるため、SNS や HP を利用して情報発信を行っているという話があったが、個人情報保護の観点でどのような対策を取っているか。

(応募団体)

当施設では、ホームページ・インスタグラム・フェイスブックを使って日常の情報発信を行っている。今年度は、運動会を開催できていないため、子どもたちが走ったり、踊ったりする様子を撮影し、動画をアップしている。保護者には事前に承諾書を提出してもらっている上、行事のプログラムにお願い事として、スクリーンショットをしない、パスワードを公開しない等の約束事を掲載するようにしている。

(構成員)

オンラインのシステムを導入したことにより、どのような効果があったか。

(応募団体)

今年度は、保護者会をオンラインで行った。保護者からの意見として、「フェイス to フェイスで話しやすい」。当施設は、夜間お勤めの方も多くいらっしゃるのので、「保育所に出向かず、職場からでも参加できるため、使いやす

い」といった意見が多く上がった。オンラインの保護者会が非常に好評だったため、来年度以降もオンラインでの保護者会を継続して行くか検討中。一方で、保護者側のオンラインの環境をどのように整えて行くかは今後の課題である。

(構成員)

安定的に人材を確保するために、様々なシステムを導入しているが、より良い職場環境をどのように考えているか。

(応募団体)

当施設では、夜間保育を 38 年間行っている。最初の頃は、世の中に保育所が夜間まで預かるという概念が無く、一斉保育のため、職員の負担が大きく離職率も非常に高かった。そこから、継続して事業を行う中で少しずつ意識が変わり、保育所指針の改訂で育児担当制保育が導入されたことにより、専門職である保育士・職員が安心して保育ができる環境が整った。また、当施設で行っている乳児保育の実績を中国 上海の学会で発表する機会があった。これまで中国では乳児保育を行っていなかったが、学会での発表をきっかけに乳児保育の法律が制定され、影響を及ぼすことができるような実績を積むことができたという確信にもつながった。

(構成員)

全体計画に各年齢の子どもにおける保育の視点が記載されている。しかし、0歳児の年間計画にのみ、その視点が園の取組みのどの部分に繋がるのかが明記されていない。

(応募団体)

次年度以降、0歳の年間計画にも項目に沿った内容を追記する。

◆構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自点数を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換を行った。

- ・これからの課題について、既に気付いている点が複数あった。その点を改善しながら、保育を行ってほしい。
- ・夜間保育に関する研究を熱心に行っている努力を評価する。
- ・経験、実績が非常に優れている。
- ・長年にわたる保育所運営からの高い見識を有している。
- ・職員の資質向上の取組みの結果、保育士が集まって来ているため、継続して取組みを行ってほしい。

◆意見交換を行った後、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定。

◆事務局は、検討会としての検討結果(総合的な意見)について協議を行った。

- ・本市が求める水準を満たしており、社会福祉法人 正善寺福祉会が指定管理者として相応しいと判断する。検討会における議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう市に求めることとする。

(2) 北方保育所

【応募団体】社会福祉法人 保育事業協会

(構成員)

全体的な計画について、職員同士で研究し、話し合う機会はあるか。

(応募団体)

職員で話し合いを行い、計画を作成している。年間計画を作成し、月の計画へ細分化している。

(構成員)

アンケートの満足度が非常に高い。現状を維持することはもちろんだが、今後どのように改善していくのか。

(応募団体)

現在の保育を継続し、満足度を保つ努力を行うほか、日頃の保護者との会話の中で出てる意見を参考に保育を改善していく。

(構成員)

職員の資質向上の取組みで園内研修を行っているが、具体的に何に繋がっているのか。また、保育所集団として目指すところはどこなのか。重点目標は何なのか。

(応募団体)

保育所指針の読みあわせを重点的に行っている。読み合わせを行うことで、職員間の共通認識・共通理解を深めることを目指している。園内研修の重点部分は、明確に決められていなかったため、今後に反映していく。

(構成員)

園の課題はそれぞれあるが、研修にどのような内容を取り入れたいのか。

また、今年度こそ、この取組みを行いたいという資質向上に繋がる課題はあるか。

(応募団体)

今年度は、新型コロナウイルス感染症から、子ども達をどのように守っていくかを課題としている。

保育所内に保護者の立ち入りが規制されている状況で、運動会や生活発表会等、子どもの成長の場をどのように親と共有するか、安全・安心に配慮し、保育を提供できるよう研修を行っていききたい。

なお、これまで閉園後に研修を行っていたが、3密を避けるため現在は正規職員のみで、職員会議・園内研修を行っている。どのように職員間で情報共有を行うかが今後の課題である。

(構成員)

保育士の確保が難しい中、3園が人を融通しているという話があったが、各保育所の保育の方針・事情が違うため、難しいのではないかと。どのように対応しているのか。

(応募団体)

正規職員に関しては、自己申告、内申を加味し異動を行っている。各保育所ごとに地域性は異なるが、一職員として、他保育所の保育方針や内容を知り職員に資質向上に繋がると考えている。

◆構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自点数を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換を行った。

- ・保育を継続する中で見えてくる課題を研修等に反映し、改善に努めて欲しい。
- ・地域交流に関しては、地域性を活かした独自の取組みが見られた。当施設は、市民センターと併設されているため、その点をより活かし、引き続き交流に取り組んで欲しい。
- ・コロナ禍で、どのように園内研修を組み立てるかは、今後の課題である。

◆意見交換を行った後、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定。

◆事務局は、検討会としての検討結果(総合的な意見)について協議を行った。

・本市が求める水準を満たしており、社会福祉法人 保育事業協会が指定管理者として相応しいと判断する。検討会における議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう市に求めることとする。

(3)陣原保育所

【応募団体】社会福祉法人 保育事業協会

(構成員)

職員研修について3つのテーマを掲げているが、どのように決めたのか。

(応募団体)

以前は、AED 研修等こなしていく研修だったため、新たに3つの項目(保護者支援・保健衛生・食育アレルギー)に分け、担当制で研修を実施した。

例えば、嘔吐対応・保健衛生マニュアルについて、保育士が子ども役と保育士役を演じ、本当にマニュアル通りに動けば対応できるのかを実践することで、マニュアルの改善に努めた。

他にも、食育については調理師の目線と保育士の目線で、意見交換し、食育の見直しにつなげた。

3つの項目は所長が定め、取り組みの内容については、職員間で意見交換を行った。

(構成員)

体操教室を毎年実施しているが、今年度も行う予定か。

指導員から保育士が学ぶ点はどのような内容か。

また、毎年テーマを決めて実施しているのか、ある場合は、どのようにテーマを決めているのか。

(応募団体)

今年度に関しては、新型コロナウイルス感染症対策をどのように行うかを含めて実施について検討中。

取組みのテーマについては、保育士から出てきた「体幹力が弱いので鍛えて欲しい」「逆上がりをしたい」「長縄で達成感を感じて欲しい」「ルールを守ることを学ばせたい」等の意見を参考に、所長と指導員とでプログラムを組み立てる。時代に応じた指導方法を取り入れ、その場で学んだことは、ビデオを録画し、共有している。

(構成員)

利用者からの苦情はどのように回収し、要望があった場合、どのように処理しているか。

(応募団体)

以前は、アンケートBOXの中に保護者の意見が入っていたが、今では、保護者が送り迎えをする時に直接保育

士に聞いてくるようになった。意見を聞いた保育士が職員間で情報共有を行い、改善に努めている。

◆構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自点数を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換を行った。

- ・所長先生の受容性が非常に高い。
- ・研修の話の中で、キャリアアップの話が出たが、テーマの決め方が、皆から聞いた話を基に最終的には所長先生が決定した内容であったため、皆で話し合う機会を設けて欲しいと感じた。
- ・多様な人材が育つ環境を作るために、皆が決めたものを見えるような形にするべき。
- ・企画提案の行事内容に公共交通機関を利用しているという話があったが、ルールやマナーを学ぶことが計画の中に盛り込まれていないため、検討して欲しい。
- ・所長先生が、それぞれの活動の中に入って保育士の動きを見ていることが伝わった。
- ・食育の推進のため、作物を育てて、自然に触れ合う教育の機会を積極的に設けている。
- ・工夫して研修に取り組んでいるが、職員の成果が分かりにくい。その部分を明確にする必要がある。
- ・施設外研修を多く設けている。その研修をもう少し園内に還元する仕組みを期待する。
- ・園内研修において、職員間の結束を強めようという姿勢が見られた。

◆意見交換を行った後、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定。

◆事務局は、検討会としての検討結果(総合的な意見)について協議を行った。

・本市が求める水準を満たしており、社会福祉法人 保育事業協会が指定管理者として相応しいと判断する。検討会における議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう市に求めることとする。

(4)千防保育所

【応募団体】社会福祉法人 保育事業協会

(構成員)

令和元年度の研修計画の中で、学んだこと・得たこと・保育の質が上がった部分はどのようなことか。その中で次年度に活かしたい課題はあるか。

(応募団体)

キャリアアップを中心に行い、個人個人の意識向上に努めたことで、保育士の意識が変わったように感じた。職員一人一人を見ると、子どもへの接し方等に成長した点が見られるが、具体的にどのような力に繋がったのかは、細かく分析ができていない。研修の記録を参考に次年度の課題を発見し、保育所集団としてのキャリアアップに繋がりたい。

(検討員)

平成30年度と令和元年度の園内行事の回数が減少している(多段階評価シート)が、何が理由で減ったのか。

(応募団体)

職員と子どもの負担を考慮した結果である。一つ一つの行事を大切に、子ども一人一人との関わりに意識を

置くことを目的に、皆で話し合いのうえ、行事の見直しを行い、本当に必要な行事を絞ることにした。今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、昨年よりはるかに行事数が少ないが、次年度以降も行事の見直しを行っていきたい。

(検討員)

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で行事についても、無観客等の制限があるが、子どもの成長については、どのように保護者へ共有しているのか。

(応募団体)

今年度はほとんどの行事を制限して行っているため、保護者から「行事の様子を見たい」という声が多く上がった。そこで、動画や写真を記録する担当職員を配置し、行事終了後は担当職員が編集した動画や写真をキッズノートにいち早くアップすることで、子どもの様子を保護者へ情報提供している。また、子どもの日々の成長については、連絡ノートを使用し、個別に伝えている。

◆構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自点数を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換を行った。

- ・自己研鑽を積むことは重要だが、職場外研修の内容をどのように園内研修に持ち込むか、工夫が必要。また、どのような人材を育てたいのかを、皆が見える形でより明確に提示することを期待する。
- ・コロナ禍の中で、保護者の要望を受け止めつつ、一人一人に対応していく姿勢が伝わった。
- ・ただ情報提供を行うだけでなく、どれだけ早く保護者に情報を提供できるかに力を入れて取り組んでいる。
- ・職員の声を研修や行事等に反映させることにより、よりよい保育に繋がると思う。

◆意見交換を行った後、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定。

◆事務局は、検討会としての検討結果(総合的な意見)について協議を行った。

- ・本市が求める水準を満たしており、社会福祉法人 保育事業協会が指定管理者として相応しいと判断する。検討会における議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう市に求めることとする。

◆事務局より、各提案の評価レベルを再度確認し、今後の指定管理者選定に関するスケジュールなどの説明をもって検討会を終了した。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により、議会の議決を経る必要があり、令和2年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

- ア 名称：北九州市立ユースステーション
- イ 所在地：北九州市八幡西区黒崎3丁目15番3号 コムシティ地下1階
- ウ 建設年：平成25年4月
- エ 延床面積：1,195.48 m²
- オ 主な施設：フリースペース、学習スペース、音楽スタジオ、多目的ホール等
- カ 業務内容：施設の管理運営業務、提案業務、その他業務

(2) 指定期間

令和3年4月1日～令和8年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

- ア 名称：ユースの未来共同事業体
- イ 所在地：北九州市八幡東区東田2丁目5番7号 東田エコクラブ内
- ウ 構成団体：特定非営利活動法人 里山を考える会
一般社団法人 進路指導・キャリア教育支援機構
- エ 構成団体の主な業務内容：
 - 【特定非営利活動法人 里山を考える会】
持続可能な社会づくりのための、環境教育事業、コミュニティデザイン事業、グローバルコミュニケーション事業、マネジメント事業の実施
 - 【一般社団法人 進路指導・キャリア教育支援機構】
中等教育のあるべき姿を探究、実践を行うために、探究プログラムの開発をはじめ、進路ガイダンス事業、寺子屋事業、高大連携プログラムの実施

2 指定の経緯

令和2年 8月19日～9月 2日	募集要項の配布
令和2年 9月 3日	募集説明会の開催
令和2年 9月 3日～9月18日	申請書及び事業計画書の受付
令和2年10月 8日	指定管理者検討会（ヒアリング）
令和2年10月	指定管理者候補を決定

5 選定基準

選定基準	選定のポイント
1 指定管理者としての適性	
(1) ユーステーションの管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	○市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解したうえで、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	○長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていただくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
(3) 実績や経験	○同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。 ○施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。 ○複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2 管理運営計画の適確性	
【有効性】	
(1) ユーステーションの設置目的の達成に向けた取組み	○施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。 ○主催事業の取組み姿勢や考え方、提案が適切であるか。 ○市の青少年教育行政の方針や施設の持つ特性を十分理解し、民間の利点を生かした提案であるか。 ○新たなプログラム開発のための研究や情報収集等の方策が十分考えられているか。 ○施設利用者増加や利便性を高めるための実施可能な提案であるか。 ○施設の設置目的に応じた運営・広報活動に関する効果的な提案であるか。
(2) 利用者の満足度向上	○利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。 ○利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。 ○利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。 ○利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。 ○サービスの質を維持、向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】	
(3) 管理運営（指定管理業務）に係る経費	○管理運営（指定管理業務）に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。 ○収入が最大限確保される取組みがなされている提案であるか。
(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	○収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。 ○経費の配分は適切であるか。 ○積算根拠は明確であるか。
【適正性】	
(5) 管理運営体制	○施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。 ○施設の管理運営（指定管理業務）にあたっての人員配置、ローテーション、バックアップ体制の考え方が適切であるか。 ○施設を運営するための知識や経験を有する職員の具体的な採用計画があり、又は確保の見込みがあるか。 ○職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。 ○他の青少年施設、地域や学校、関係団体との連携について十分に考えられているか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制	○施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。 ○利用者が平等、公平に利用できるよう配慮されているか。 ○日常の事故防止等の安全対策や事故発生時の対応等が十分に考えられているか。 ○防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制等が十分に考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 得点

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル					検討会 審査結果	得点
			検討員						
			A	B	C	D	E		
ユースの未来共同事業体	1 指定管理者としての適性								
	(1) 管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	5	4	4	4	3	4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	3	4	3	3	3	3
	(3) 実績や経験	5	5	3	4	3	5	4	4
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 設置目的の達成に向けた取組み	30	5	4	4	4	5	4	24
	(2) 利用者の満足度向上	10	3	3	5	4	3	4	8
	【効率性】								
	(3) 管理運営（指定管理業務）に係る経費	15	3	3	3	3	3	3	9
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	4	3	4	3	6
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制	10	4	3	4	3	3	3	6
	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制	10	3	3	4	3	3	3	6
合計	100	—	—	—	—	—	—	70	
地元団体に対する優遇措置 5点（市内）								75	

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル					検討会 審査結果	得点
			検討員						
			A	B	C	D	E		
玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体	1 指定管理者としての適性								
	(1) 管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	5	3	4	4	3	3	3	3
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	4	4	3	3	4	4
	(3) 実績や経験	5	4	5	4	4	3	4	4
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 設置目的の達成に向けた取組み	30	3	4	3	3	4	3	18
	(2) 利用者の満足度向上	10	3	3	5	3	4	4	8
	【効率性】								
	(3) 管理運営（指定管理業務）に係る経費	15	3	3	4	3	3	3	9
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	4	3	3	3	6
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制	10	4	4	4	3	4	4	8
	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制	10	3	4	4	3	3	3	6
合 計	100	—	—	—	—	—	—	66	
地元団体に対する優遇措置 3点（準市内）								69	

(2) 検討会における主な意見

【ユースの未来共同事業体】

- ・ 利用者の成長を促すことに着目した理念やプログラムに魅力が感じられ、プログラム開発への積極的な試みの姿勢も伝わった。
- ・ ユースステーションの運営実績はないが、他の施設や学校での取組実績などから、十分な適性が見込める。
- ・ SDGs やキャリア支援といった実績に基づいたプログラムの提案内容が、ユースステーションのメインターゲットとしている中・高校生とマッチしており、非常に魅力的で評価できる。

【玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体】

- ・ これまでの実績から、ノウハウや人材、管理体制など、安定した運営基盤を有していることが評価できる。
- ・ 居場所というキーワードで幅広い年齢層の受け入れを目指す工夫が見られた。
- ・ 若者がユースステーションに行きたいと思うように、情報収集や発信の方法に、具体的なビジョン・工夫があれば良かった。

(3) 検討会における検討結果

以上の評価点及び検討結果を総合的に勘案し、検討会としてはユースの未来共同事業体が指定管理者として相応しいと判断する。市は、検討会における議論を参考に、最終決定を行われたい。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、ユースの未来共同事業体を指定管理者候補に選定した。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・ ユースステーションの設置目的及び若者支援の施策についてよく理解しており、また、同施設の管理に関する強い意欲が感じられる。
- ・ 新たなプログラム開発のための研究や情報収集などが積極的かつ的確であり、利用者のニーズに対応しようとする姿勢が明確である。
- ・ しっかりとした理念、基本方針があり、ユースステーションの進化、利用者の成長を促すといった提案内容も非常にわかりやすい。
- ・ SDGsやキャリア支援といった事業について、専門知識を有しており、他の施設や学校などでの実績も十分にあり信頼がおける。

8 提案額

令和3年度	45,774千円
令和4年度	45,774千円
令和5年度	45,774千円
令和6年度	45,774千円
令和7年度	45,774千円

提 案 概 要

(北九州市立ユースステーション指定管理者)

団体名：ユースの未来共同事業体

1 指定管理者としての適性について

(1) ユースステーションの管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針	
【理念】	若者と共に進化する北九州市立ユースステーション ～持続可能な未来の探究・共創拠点を目指して～
【基本方針】	提案団体のこれまでの知見・実績等を礎に、堅実な施設管理を継承するとともに、「進化する北九州市立ユースステーション」の実現を目指して、新たなプラットフォームづくりと諸活動に取り組みます。
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	
【特定非営利活動法人 里山を考える会】(以下、NPO 里山)	
＜人的基盤＞ 持続可能性という観点から、未来を担う人財を育成する専門集団	
＜財産基盤＞ 令和元年度実績 収入 129,211 千円、当期純利益 310 千円、正味財産が 71,603 千円	
【一般社団法人進路指導・キャリア教育支援機構】(以下、OCES)	
＜人的基盤＞ 教育に携わり 19 年の経験のある法人代表をはじめ、キャリア教育に携わる職員が在籍	
＜財産基盤＞ 令和元年度実績では、収入 7,028 千円、利益剰余金 394 千円	
＜ネットワーク基盤＞ これまでの活動実績により幅広い分野の団体等との連携、協働が可能	
(3) 実績や経験	
<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 里山は北九州市環境ミュージアム、生涯現役夢追塾などの指定管理者としての長年の運営管理に加え、国際分野や SDGs に関わる様々な教育・研修プログラム、イベント等の企画・運営実績有り。 ・OCESは、SDGsや現代社会と接続したプロジェクト学習を高等学校にて放課後開講。また、高校と上級校のマッチングを図るため、校内での進路・キャリアガイダンスを積極的に展開。 	

2 管理運営計画の適確性について

【有効性】に関する取組み	
(1) ユースステーションの設置目的の達成に向けた取組み	
◆気軽に立ち寄り、楽しみながら交流できる場の提供【交流】	
・「多世代交流」「地域との交流」「多価値との交流」を通して“人とつながる”力を身に着ける事業を実施	
◆さまざまな遊びや体験活動の場の提供【遊び・体験】	
・活動のフィールドを広げ、「自分の好きなもの」「自分のやりたいもの」を見つける体験型事業を展開	
◆自ら成長していくための学びの場の提供【学び】	
・SDGs を中心テーマとする PBL(問題解決型、プロジェクト型)プログラムにより地域・社会課題に向き合い、その解決を探究する力の醸成を図ると共に、多様な分野の職業体験等の機会を提供	
◆若者に係る情報の発信【情報発信】	
主催事業への参加中高生の体験談などを発信。HP・SNS の効果的運用に加え、施設内の掲示等を活用	
◆ユース運営委委員会の設置	

ユースステーションの若者による主体的運営、積極参加促進のため、ユース運営委員会(仮称)を組織。

◆アドバイザーボードの設置

有識者や地域団体等をアドバイザーとして委嘱、プログラムや施設運営に関する助言、指導を仰ぐ。

◆主催事業の実施方針等

・主催事業:8事業 24講座を開催 のべ参加人数 6230人 (令和7年度時目標)

・昼間の時間帯にユースをサポートする大人や企業にアピールし、利用促進と多様な交流を深化。

・コロナ共存時代に対応した安全・安心の運営を行う。

・「ひとみらいプレイス」内関係機関をはじめ市内関連施設(東田ミュージアムパーク等)との連携あるいはオンラインプログラムの導入等により、来館利用以外の参加・活動機会の創出を図る。

(2) 利用者の満足度向上

・ユース運営委員会設置等により、利用者自らの選択に沿ったプログラム、行事を実施する。

・多世代のボランティアを起用し、多様なニーズへのきめ細やかな対応を図る。

・利用者の苦情又はアンケート等での声を「アドバイス」と捉え、プロセスを見える化し迅速に対応する。

【効率性】に関する取組み

(1) 管理運営(指定管理業務)に係る経費

・事務機能を本部で一部担うことにより事務費の負担を押さえ、現場を重視した職員配置とします。

・関係先と協働することで、費用を低減して事業を展開します。

・主催事業やユースステーション運営への協力・連携団体に対して働きかけ、施設利用を促進します。

(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性

・これまでの指定管理業務の受託経験・実績より実現可能な計画を算定。

【適正性】に関する取組み

(1) 管理運営体制

・施設管理実務責任者(事務局長)の下、適材適所の職員配置を行いマネジメントします。

・常勤職員4名は多機能とし、嘱託スタッフ等と共に柔軟なシフトワーク体制の構築を図ります。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制

・個人情報保護に関しては、新たに「個人情報保護規定」を作成し、適正に管理します。

・ハードのバリアフリーだけでなく心のバリアフリーも大切に全ての利用者が使用できるようにします。

・新型コロナウイルス感染予防対策マニュアルを整備し的確な実行を徹底します。

・危機管理対策として職員への防犯・防災研修を実施します。

提案額(千円)

令和3年度	45,774千円
令和4年度	45,774千円
令和5年度	45,774千円
令和6年度	45,774千円
令和7年度	45,774千円

北九州市立ユースステーション指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和2年10月8日(木) 13:30~15:40
- 2 場 所 北九州市立ユースステーション セミナールーム
(北九州市八幡西区黒崎3丁目15-3 コムシティ地下1階)
- 3 出席者 検討員：村上委員、松木委員、野口委員、吉井委員、佐野委員
事務局：子ども家庭局青少年課長、管理係長、担当職員
- 4 会議内容
 - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項等について事務局より説明
 - 検討員の互選により、座長の選出
 - 提案概要に関して応募団体よりヒアリング

【ユースの未来共同事業体】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

(検討員) 多くの主催事業を企画しており、年間の延べ参加人数は6,230人を見込んでいるが、一方で、令和7年度の来館者数は33,000人を目標としている。主催事業への参加人数以外の約26,000人について、どのようにサポートしていくのか。

(応募団体) 主催事業については、連続講座にするなどでリピーターを増やし、あわせて、口コミにより「ユースステーションというところがあるのか」「ユースステーションに行ってみよう」という学生も増やしていきたい。また、現状でも自習、学習などでフリースペースや学習スペースを利用するために来館している利用者も多いので、すべて含めて33,000人という目標を設定した。

(検討員) かなり多くの充実した講座を企画しているが、これらは参加料を徴収するのか。

(応募団体) 材料費などの実費負担程度、または無料での実施を考えている。

(検討員) 採算は取れるのか。

(応募団体) 我々が指定管理を受けている他の施設での過去の実績などを鑑みて、採算は合うよう計画している。

(検討員) 幅広い分野の講座を企画しており魅力的だが、講座の運営やそれぞれに係るスタッフについての見通しはどうか。

(応募団体) ユースステーションを運営するにあたって、アドバイザーボードを設置し、構成メンバーの先生方や地域の方々とも連携、協力しながら運営していきたいと考えている。また、ユースステーションのスタッフには研修などを

実施しながら、内部スタッフでも講座を運営していくよう考えている。また、SDGs 関係の主催事業については、一般社団法人進路指導・キャリア教育支援機構（OCES（以下、オーケス））も、里山を考える会も SDGs 関連のワークショップなどを実施しているので、我々で開催できる。

(検討員) ユースステーションは現在、中・高校生以外にも小学生や一般の方も利用しているが、大学生や専門学生も含めた幅広いサポートについてはどう考えているか。

(応募団体) 主なターゲットは中・高校生としている。時間帯によって色々な方が利用されることについては、どのような利用のされ方など、まだ把握できていないため、利用者の声を聴きながらバリエーションを広げていきたい。

(検討員) 多くの魅力的な講座があるが、この講座は1年間ずっと変わらないのか、内容が変わったりするのか。利用者は興味のある講座には参加するが、それ以外の講座へも興味を引き付けるような工夫はどうか。

(応募団体) 提案書の22ページにある中・高校生による自主企画事業について、中・高校生が自ら「こういうのをやってみたい」というのを企画し、その事業をやってみて、文化祭などの場で発表することを考えている。そうすることで、中・高校生が「自分たちが一番やりたいことができた」と感じられるような工夫も臨機応変にやっていきたい。

(検討員) 課題の探究活動やキャリア支援事業など色々あるが、他の場所での実績はどうか。

(応募団体) 課題の探究活動は、北九州市内であれば自由ヶ丘高校や小倉高校の生徒と実施しており、それをユースステーションで色々な高校生を集めてやっていきたい。また、SDGsのワークショップについては、例えばカードゲームを使って体感的に学ぶというプログラムがあるが、里山を考える会はファシリテーションの認定の資格を持っており、過去2年半くらいで30回以上開催し、1,500名以上が参加している実績もある。高校については、昨年からオーケスと連携してのプログラムを実施している。

(検討員) 黒崎方面の学生は利用しやすいが、小倉方面の学生には認知度が低い印象がある。また、ユースステーションが地下にあるというのも分かりづらかったりもする。リピーターを増やすという工夫はすごくやっていると感じるが、新規の利用者を増やすという工夫についてはどうか。

(応募団体) ユースステーションが黒崎にあるので、ここでの人の関わりなどは八幡西区、黒崎が中心にならざるを得ないと考える。だが、ここで講座をやるだけではなく、外のフィールドに出て、そこの地域課題は何かとか、地域で活動されている方の話を聴くなどの機会をつくっていきたい。

(検討員) 中・高校生、特に高校生は、自身のキャリアを考えるのに大事な時期だが、部活動に熱中する学生も多く、こういった活動を広めたとしても、興味を持ちづらいのではないかと思う。これらについて、どういった広報などを考えているか。

(応募団体) 学校の授業ではないところで自主的に集まってディスカッションをしたり、SDGsについて考えて取り組むというのは、確かにそういった意識の高い学生が多いという印象を持っている。今後は部活動に一生懸命な学生など、どうやって新規の学生の目を向けるのかを考えており、例えば、探究ツアーやフィールドツアーの体験型プログラム、体を動かすような林業や農業、動物との触れ合いなどであれば、普段は部活動に熱中しているような学生の目も向けることができるのではないかと考えている。

(検討員) 例えば、高校の授業の中にこういったものがあれば、そこで学生全体に知ってもらえることができ、新規、リピーターを増やすということにつながるのではないかと思うが、ユースステーションだけではなく、高校との連携を強化するなどはないか。

(応募団体) オークスは、元々は高校の探究の授業の中で事業を実施しており、高校とのつながりがあるので、ユースステーションでもやっていることを広報することは可能である。

- ・ 提案概要の説明と質疑応答を受けて、各自得点を記入

【玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

(検討員) 現在、新型コロナウイルスの影響で利用者が減っていると思うが、提案の中で掲げている利用者数の目標人数はすごく多い。今後も新型コロナウイルスの影響を考えると、再検討してもらわなければならないところもあると思うが、どう考えているか。

(応募団体) 新型コロナウイルスの影響による利用者の減少については、今回の提案の中では加味していない。理由としては、来年度の4月以降は平常どおりに戻ることを前提としており、予算なども組んでいる。ただし、このような状態なので、現在、ユースステーションは利用者の人数制限を行いながら感染予防に取り組んでいる。この状態が今後どのように変化するのかに応じて、利用者の人数制限などを行わなければならないとも考えている。

(検討員) リピーターなど、延べの利用者数は増えているが、実際の来館者数は減っていることへの対策はどのように考えているか。

(応募団体) 実人数については、平成27年度の直営時の人数よりも平成30年度は微増している。確かに指定管理となった平成28年度からの4年間で見ると実人数は少し減っているが、直営時と比較すると少し増えている。今後の対策としては、各部屋の稼働率を上げていくことが非常に重要であり、ホームページなどで各部屋の情報を細かくお知らせしていこうと考えている。また、学生が利用する時間帯よりも前の時間帯に、一般団体の利用を促していくことで、利用者の実人数の増加を目指したいと考えている。全体的には、平成30年度

の約 70,000 人というのがユースステーションの最大の延べ利用者数だったので、現在は伸び悩んでいるという状態である。まだまだ伸びしろはあると思うが、大きな伸びというよりも、微増、微減を繰り返しながら安定させていくことが重要であると考えている。

(検討員) 具体的に何をするかというのはどうか。

(応募団体) 具体的には、学生の利用時間帯の前の部屋が空いているときの情報を細かに SNS などでお知らせしながら、一般団体の増加を図っていくことが実人数の増加につながると考えている。

(検討員) 一般の利用者よりも、やはり中・高校生の利用者をメインにしてもらいたいとも思うが、その対応はどう考えているか。

(応募団体) 中・高校生、大学生などをメインに利用者を増やしていかなければならないが、中学生、小学生は確かに少ない。これに対しては、地域の小・中学校に出向いて利用を促しているが、ただの広報ではなく、ユースステーションの概要について詳しく説明していくことが必要になってくると思っている。学生は 3 月に卒業することで、これまでのリピーターが一気に減るため、特に 2 月、3 月の広報活動や 4 月、5 月の新入学生への広報活動を増やしていくことで、学生の利用者数の維持を図っていききたい。また、ユースステーションは八幡地区の学生が多いため、小倉や門司方面へもアプローチをかけながら、さらには大学、短大、専門学校にも再度、声かけをしながら、学校にもユースステーションの存在を知ってもらい、学生の利用を促してもらえるよう広報活動を続けていきたい。

(応募団体) ユースステーションは高校生の利用が中心となっているが、土曜、日曜、祝日など高校生の時間があるときは、かなり混雑している状態となっている。朝の開所前は、入口前に高校生が何十人も並んでいることもある。この状況でさらに高校生の利用を増やすというのは少し難しいので、利用時間帯の異なる小、中学生に利用してもらったり、また、日中の学校の授業があっている時間帯は、施設が比較的空いているので、その時間帯に一般の方、主婦層の方々などに利用してもらえるような対策を行っていききたい。

(検討員) 中学生の利用は 19 時までとなっているが、中学 3 年生だと学校が終わるのが 17 時を過ぎたりすることもある。それからユースステーションに来て 18 時から 19 時まで 1 時間だけ勉強するということは現実的に厳しいと思う。また、小学生のみでの利用はできないともなっている。そこで、新規の利用者、リピーターを増やすために色々な情報を発信していると思うが、中には SNS を利用していない小学生などはホームページまで行きつかなくて見ることがないこともある。これまでも SNS の有効活用はやってきたと思うが、情報の発信の方法や内容などについて、これまでとは違った具体的な工夫や計画はあるか。

(応募団体) SNS について、これまでは LINE、Instagram、Facebook を使い広く情報を発信している。小、中学校の利用者を増やしていくには、学校の理解が重要

になってくる。小・中学校の利用には色々な規制があるが、これはユースステーションの開設当時に黒崎地区の小、中学校との約束事があったものと聞いている。SNSなどで小学生に届くのはなかなか難しいので、学校周りや学校でのポスター掲示、地域の市民センターとも連携を密にして、小学生については、やはり対面での広報により、保護者の理解や学校の理解を得られるよう続けていくことがこれからも重要であると考えている。また、SNSが届く高校生などにも引き続き情報を発信していきたい。

(検討員) 今後、もっと強化していきたい部分があれば教えて欲しい。また、高校生の利用者が多く、提案書の中で印象に残っているキーワードに居場所という言葉があったが、ただの居場所ではなく、学校でも塾でもない、色々な人と関わられる場所ということが強みだと感じた。それを踏まえうえて、もっと高校生の進路などを一緒に考えてくれるような、キャリア支援の事業なども考えているか。

(応募団体) 現在、主催事業の中で高校生や大学生へのキャリア支援などは行っていないが、今回は課題解決型の事業を提案している。その中から色々な要望を伺うなどのキャリア支援に関わっていききたいという希望はある。これにはユースステーションの職員ではカバーできない部分もあるので、運営協議会などに諮りながら、様々な支援施設の方々にご協力いただきやりかたも考えている。利用者からそういった要望があれば、こちら動きやすく、色々な方の教えをいただきながらユースステーションを運営していきたいと思っている。利用者からの要望を具現化することができるのがユースステーションのフットワークの軽さだと思っているので、中・高校生の委員会などでそういった意見を出してもらったり、アンケートなどをもらえればと思っている。

- ・ 提案概要の説明と質疑応答を受けて、各自得点を記入

- 検討員は、各自得点を記入したものを発表。その後、検討員全員で意見交換

(検討員) ユースの未来共同事業体(以下、ユースの未来)は、まだ実践されていないので、実績や基盤については普通だが、提案の中身は、様々な講座やプログラムを試みようとしている点や利用者の成長を促すというような理念が強く感じられた。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体(以下、玄海GA)は、これまでの実績や経験、管理体制などは十分だと思う。

(検討員) どちらの団体もしっかりとした理念、コンセプトが感じられた。

ユースの未来は、新規の参入ということで目新しい魅力的な企画があったという印象。

玄海GAは、これまでの実績を継続という印象。しかし、ユースステーションの利用者数が減少していることを考えると、魅力的なのはユースの未来ではないかと感じた。特にSDGsに関しては、現在、ほとんどの小、中、高

校で取り組んでいるため、そこで新規の利用者の獲得の可能性が高まるのではないかと感じた。

(検討員) ユースの未来は、主に中・高校生を支援したいという思いは強く伝わってくるが、それだけでは、中・高校生が学校に行っている時間帯のユースステーションの稼働率は下がるのではないかと感じた。それ以外の一般の利用や小学生、大学生などを含めた利用促進の取組みもするとは思いますが、そこに対する具体性が感じられなかった。しかし、設置目的の達成に向けた取組みとして、新たなプログラム開発に関しては、様々なプログラムを計画しており、興味を惹かれるものもあった。

玄海 GA は、実績や経験は十分にあるが、設置目的の達成に向けた取組みとして、要望を聞いて改善することでより良いユースステーションにしたいというようなことがあったが、要望を聞いて改善するのは当然。重要なのは、若者がどういうものに興味があって、どういった講座を企画したら、若者がユースステーションに行きたいと思われるかといった部分だと思うが、そういった情報収集の方法の工夫については、提案の中では感じられなかった。第 2 期目ということもあったので、前回との違い、今までやってきた中で足りなかった部分やこれまでの 4 年とこれからの 5 年でどう違うのかを示して欲しかったが、そういった部分が分かりにくかった。

(検討員) ユースの未来は、メインターゲットである中・高校生にとって、将来の進路選択は非常に重要になってくると思うが、そこを捉えた具体的な提案があった。ユースステーションでの実績はないが、それ以外での実績は十分魅力的だった。また、SDGs の推進ということで、これまでとは違った視点から新しい事業を企画しているのは良かった。

玄海 GA は、これまでの実績があつての第 2 期目ということだが、飛びぬけた変化というものはあまりなかった印象。中・高校生にとっては、体を動かして体験するものも大切だが、将来のことを考える機会も必要だと思うが、その部分については少し薄い印象を受けた。

(検討員) ユースの未来は、環境教育や SDGs に重点を置いた基本方針というのは、世界的な流れに沿っている印象。これまでのキャリア支援など中・高校生を対象とした事業の実績などから、適性について高く評価できる。また、設置目的の達成のための事業についても、アウトリーチなどの幅広い事業であったり、アウトリーチを見据えた活動を提案している点が魅力的に感じた。

玄海 GA は、他の施設で培ったノウハウや人材といった基盤などを含め、十分な実績を持っている。また、就業支援などの活動の提案は、非常に意義のあるものだった。一方で、他の新規の学生などへのアウトリーチであったり、情報発信の方法については、さらに具体的なビジョンがあれば良かったのではないかと感じる印象。

- 各検討員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各団体の評価レベルを決定
- 事務局は各団体の合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

[総合的な所見]

ユースの未来共同事業体は、ユースステーションの運営実績はないが、他の施設や学校での取組実績などから、十分な適性が見込める。特に、SDGs やキャリア支援といった実績に基づいたプログラムの提案内容が、ユースステーションがメインターゲットとしている中・高校生とマッチしており、非常に魅力的で評価できる。

一方で、玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体は、これまでの実績から、安定した運営基盤を有していることが評価でき、また、居場所というキーワードで幅広い年齢層の受け入れを目指す工夫も見られた。

最終的には、提案内容について、利用者の成長を促すことに着目した理念や、プログラムの魅力とその開発への積極的な試みの点で、両者の評価に差があると判断した。

以上により、検討会としてはユースの未来共同事業体が指定管理者として相応しいと結論づけた。

- 事務局より、今後の指定管理者選定に関するスケジュールなどの説明を行い、検討会を終了